

2 【事業の内容】

当社グループは、ダイセル化学工業株式会社（当社）及び子会社56社、関連会社14社より構成されております。
E00818)

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結会計期間のわが国経済は、世界的な金融危機による信用収縮と、それに伴う需要の急速な減退、さらには雇用不安の深刻化など、景気は急激に減速し、非常に厳しく、かつ、先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような環境の中、当第3四半期連結会計期間の当社グループの売上高は、994億5百万円となりました。利益面では、営業利益41億89百万円、経常利益31億7百万円、四半期純利益50百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題は、次のとおりであります。

世界的な金融危機が実体経済に大きく影響し、世界経済は急速に悪化しております。

なお、当社取締役会は、大規模買付ルールを適正に運用し、取締役会によって恣意的な判断がなされることを防

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号、以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。なお第1四半期連結会計期間（平成20

[Redacted content]





E00818)

当第3四半期連結累計期間

(自平成20年4月1日
至平成20年12月31日)

(追加情報)

有形固定資産の耐用年数の変更

当社及び決算日が3月31日の国内連結子会社の耐用年数については、第1四半期連結会計期間より、法人税法の改正を契機として見直しを行い、耐用年数の変更を行っております。

これにより当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益、及び税金等調整前四半期純利益は、それぞれ324百万円減少しております。

なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。

重要な減価償却資産の減価償却の方法

決算日が12月31日の国内連結子会社は、平成19年麻 種 △日の国内連結再

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間
(自平成

E00818)

【海外売上高】

当第3四半期連結会計期間（自平成20年10

独立監査人の四半期レビュー報告書